結核の現状と日本としてできることを今考える

～グローバルファンドのユースグループと日本の次世代との対話～

日時：7 月 5 日（金）17:30～19:00
オンライン開催

2030 年までに３大感染症（HIV/AIDS、結核、マラリア）の終息を目指す SDGs の目標に対して、一定の進展は見られますが、完全な終息への道のりは依然として遠く、持続的な取り組みが必要だといわれています。

この 3 大感染症のうち結核は古代から存在し、今なお世界で最も多くの命を奪う感染症の一つで、2022 年には約 130 万人が結核で亡くなりました。日本における結核の罹患率（人口 10 万対）は 9.2 で（2021 年）、結核の低まん延国となりました。しかし近年、外国生まれの結核患者の占める割合が増加傾向にあります。特に、40 歳未満の若年層においてその割合が高く、20 歳代では 7 割を超えています。

本イベントでは、開発途上国で HIV および結核に罹患したことのある、マラウイおよびインドの当事者の若者とオンラインでつなぎ、結核にかかった経験を話していただきます。また、日本における在住外国人の結核の現状や取り組みに詳しい専門家にお話を伺います。

結核は決して過去の病気でも、貧しい国だけの病気でもありません。世界と日本における結核の現状を知り、日本としてできること、また私たちにできることを国会議員とともに考えます。海外の当事者の方々および専門家とお話しできる大変貴重な機会ですので、是非ともご参加ください。

参加登録フォーム：https://forms.gle/GwP6ySLjGoeKicZZ6

【開催概要】
[日時]　7 月 5 日（金）17:30-19:00
[場所]　オンライン　※後日オンラインのリンクをお知らせします。
[言語]　日本語・英語（同時通訳あり）
[主催]　Health for All .jp
[後援]　日本国際交流センター（JCIE）/グローバルファンド日本委員会（FGFJ）

【プログラム】（パネリストは順不同）※内容は予告なく変更になる可能性があります。
イントロダクション　茶山美鈴　Health for All.jp 代表

結核についてのプレゼンテーション
ご登壇者様：
李祥任氏
（公財）結核予防会結核研究所 臨床疫学部主任、入国前結核スクリーニ

ング精度管理センター主任(兼任)
※結核についての現状やこれまでの日本の取り組み等基礎知識についてご解説いただきます。

パネル・ディスカッション「世界の結核と日本の結核、日本ができること」
ご登壇者様：
グレース・ングルベ氏（マラウイ）
　グローバルファンド　ユース・カウンシル　議長
ヒマニ・ヴェルマ氏（インド）
　グローバルファンド　ユース・カウンシル　メンバー
李祥任氏
　（公財）結核予防会結核研究所 臨床疫学部主任、入国前結核スクリーニング精度管理センター主任(兼任)
国光あやの氏
　衆議院議員（自由民主党）、医師
茶山美鈴
　Health for All.jp 代表（モデレーター）
ディスカッション、質疑応答
閉会

【申込に関するお問い合わせ】meilin131221@gmail.com

【登壇者プロフィール】
グレース・ングルベ（Grace Ngulube）氏　グローバルファンド　ユース・カウンシル　議長（マラウイ）



- マラウイにおけるエイズ対策の提言活動を行う。
- 社会福祉の学士号を取得
- 「REACH」プロジェクトや「Peers to Zero」プロジェクトでピアサポーターおよびプロジェクトコーディネーターとして従事した経験を持つ
- グローバルファンドのユース・カウンシルの議長、及びマラウイの「HER Voice」親善大使、また「We Care Youth Organization」でピアサポーターおよびプロジェクトコーディネーターも務めている
- 抗レトロウイルス療法を受けている若者と子どもたちのケアや、性と生殖に関する健康の問題に取り組んでいる。

ヒマニ・ヴェルマ（Himani Verma）氏　グローバルファンド　ユース・カウンシル　メンバー（インド）



- インドのチャッティスガル州出身の結核サバイバー
- 2018 年から結核の活動家として、自身の経験を踏まえて、結核患者が一人も苦しむことのないよう、コミュニティでの結核に対する認識を高め、結核患者やその家族に心理社会的支援を提供し、州での結核をめぐる問題を提言している。

グローバルファンド　ユース・カウンシル

三大疾病の予防、治療、ケア、支援サービスへの公平なアクセスを確保するにあたって若者が直面する課題、変化しつつあるニーズや新たに生まれつつあるニーズについて声をあげ、若者の多様な視点や若者主導の解決策をグローバルファンド事務局に提言する役割を担う。2020 年 1 月に設立され、HIV、結核、マラリアに罹患、または罹患しやすい 18～29 歳の若者で、疾病、ジェンダー、地域のバランスを考慮してメンバーが選出される。Health for All .jp としては今回初めてイベントへお招きする。

李　祥任（り さんいん）氏



- （公財）結核予防会結核研究所 臨床疫学部主任、入国前結核スクリーニング精度管理センター主任（兼任）
- 順天堂大学大学院（医学博士）、University of New South Wales, Sydney (公衆衛生学修士)卒業。
- 看護師として都内病院勤務後、グローバルヘルスの実務や研究に従事。
- 専門は移住と健康、移住者の感染症対策。
- 結核研究所では、外国出生者を対象にした結核対策の推進や研究事業等に従事。
- 国立国際医療研究センター呼吸器内科客員研究員、Migrant Health Action Network (MiHAN)代表。

国光　あやの氏



- 当選 2、自由民主党衆議院議員/医師
- 長崎大医学生時代から、アフリカ、中東でグローバルヘルス、医療支援に関わる。
- 厚労省医系技官を経て、2017 年初当選。自民党外交部会副部会長、顧みられない熱帯病議員連盟事務局担当　他

世界エイズ・結核・マラリア対策基金（グローバルファンド）
グローバルファンドは、低・中所得国の三大感染症対策を支える官民連携基金。G7 をはじめとする各国の政府や民間財団、企業など、国際社会から大規模な資金を調達し、低・中所得国が自ら行う三疾病の予防、治療、感染者支援、保健システム強化に資金を提供しています。2002 年の設立以来、グローバルファンドのパートナーシップにより、5000 万人の命を救うことができました。2020 年以降の新型コロナ対策では、ACT アクセラレーターの主管機関として、検査、保健システム、治療で大きな役割を担ってきました。2000 年の G8 九州・沖縄サミットで、議長国日本が感染症対策を主要課題として取り上げ、追加的資金調達と国際的なパートナーシップの必要性について G8 諸国が確認したことが、グローバルファンド設立の発端となりました。このことから、日本はグローバルファンドの「生みの親」のひとつと言われています。
https://www.theglobalfund.org/en/

[主催団体]
Health for All.jp
創設者は茶山美鈴及び大久保里佳子。グローバルヘルス概念の浸透及び外交政策内における国際保健医療分野投資の注力のための政策提言活動、 国民向けのイベント開催、メディアでの訴えかけなど続ける。

[後援団体]
グローバルファンド日本委員会（FGFJ）
グローバルファンド日本委員会は、世界エイズ・結核・マラリア対策基金（グローバルファンド）を支援する日本の民間イニシアティブ。グローバルファンドに対する理解を促進するとともに、感染症分野における日本の役割を喚起し、政策対話や共同研究、国際シンポジウム、視察プログラム、一般向けの意識啓発などを実施している。（公財）日本国際交流センターのプロジェクトとして運営されている。
グローバルファンド日本委員会　http://fgfj.jcie.or.jp/
（公財）日本国際交流センター　https://www.jcie.or.jp/japan/